

中部様式

令和7年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

志摩市地域公共交通会議  
(志摩市)

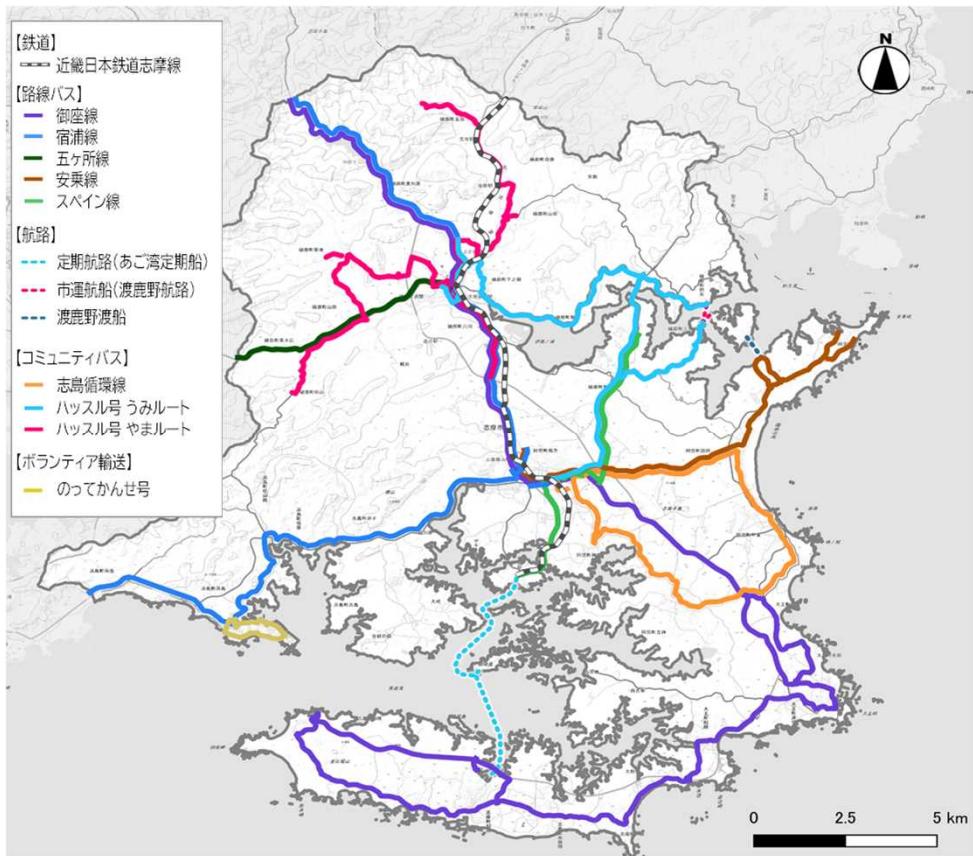
平成19年4月1日設置

令和6年3月 志摩市地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和6年4月～令和10年3月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業  
・離島航路運営費等補助金

## 計画が目指す将来像

「住む人の誰もが、いつまでも、安心して自由に出かけられ、訪れた人がみな、まちじゅうを自由に巡り、自然や人の魅力に出会えるまち」



### 【志摩市の概要】

平成16年10月1日に、志摩郡5町  
(浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町)  
が合併して、誕生。

面積：178.95 km<sup>2</sup>

人口：43,026人 ※令和7年12月末時点

高齢化率：42.7%

## 基本方針

- I 市民が過度に自動車に依存せず、地域公共交通で気兼ねなく移動できる姿
- II 観光客が地域公共交通で、快適に観光地を周遊することができる姿
- III 市民・事業者・行政等、みんなが一緒に考え、つくる地域公共交通ネットワークのあるまち

## 交通の状況

### 【1】幹線

鉄道 ▶ 近鉄志摩線

路線バス ▶ 御座線・宿浦線・五ヶ所線

### 【2】支線

路線バス ▶ 安乗線・スペイン線

コミュニティバス ▶ 志島循環線・磯部地域予約  
運行型バス「ハッスル号」

航路 ▶ あご湾定期航路・市運航船・渡鹿野渡船

# A I デマンド交通「のりあい」実証運行

交通空白地域等の既存公共交通の利用が困難な地区における、通学や通院、買い物、路線バス等への接続等、移動手段を確保し、市民一人ひとりのニーズに応じた移動を支援するため、AI技術を活用した公共交通として、デマンド交通「のりあい」の実証運行を大王町及び志摩町、阿児町で実施した。

## 実施体制



### 【参考：令和5年度実証運行】

- ・実施期間：令和6年1月10日～3月29日 (55日間)
- ・料 金：定額200円
- ・停留所：大王町 49箇所・志摩町 60箇所

## ○運行期間・時間

令和6年11月19日～令和7年3月29日(86日間)

※阿児町は、11月19日～2月19日(60日間)

※木・日・祝・年末年始を除く

午前8時30分～午後4時30分

## ○利用料金(運賃)

距離制運賃 (直線距離)	大人	割引運賃	特別運賃
1km未満	200円	100円	100円
1～2未満	300円	150円	150円
2～4未満	400円	200円	-
4km以上	500円	250円	-



\*【割引運賃対象】※未就学児無料

①小学生および中学生 ②障がい者および同伴する介護者1名

\*【特別運賃対象】※詳しくは別ページをご確認ください

①路線バスとの乗り継ぎのために利用する方

②病院から最寄りの薬局への移動で利用する方

## ○停留所

大王町：55箇所・志摩町：88箇所・阿児町：150箇所

利用者数	令和5年度	令和6年度
大王町	267人	451人
志摩町	340人	676人
阿児町	—	839人
合計	607人	1,966人

## 2. 【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

4

### 横山VIEWタクシー

近鉄電車で訪れた観光客を対象に、鵜方駅から市内で人気の観光地である横山展望台までを片道ワンコイン（500円）で結ぶお得なタクシー運送プランを商品造成した。好評のため次年度も継続して実施予定。

利用者／R4 2,939組・11,948人、R5 2,943組・11,928人、  
R6 2,961組・16,421人



### 定期航路補助

あご湾定期船（賢島～和具）を利用する学生の負担を軽減し、航路利用を促進する。

対象航路: 賢島港～和具港を結ぶ「あご湾定期船」

対象者: 航路通学を行う生徒の保護者。 ※志摩市外に居住者も対象

購入者数 R4 4人、R5 10人、R6 5人

### 交通DX・GXによる経営改善支援事業活用による船舶の修繕

間崎島住民にとって唯一の生活手段である英虞湾指定航路の安定した運航と、安全安心な利用環境を確保することを目的とし、予備船舶「さきしま」の主機換装及び補機換装を行った。



### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

評価指標	R10年度 目標値	計画記載 の現状値 (R5年度)	達成状況 (R6年度 実績値)	考 察																																								
地域基幹病院（県立志摩病院）の路線バス停留所乗降者数	(平日)40人/日 (土曜) 7人/日 (日曜) 3人/日	21人/日 4人/日 2人/日	21人/日 3人/日 1人/日	前年度から若干の減少が見られた。また、地域間幹線と志島循環線と安乗線の利用者数も減少している。																																								
公共交通空白地区の解消数	全地区 (11地区)	—	0地区 (0地区)	解消地区数としては0となっているが、交通空白地を有する3町（大王町、志摩町、阿児町）それぞれに合わせた交通施策の実証運行を行い、本格運行という形で解消に向けて進めている。																																								
地区内交通(ハッスル号)から鉄道・路線バス(鵜方駅・磯部駅・磯部バスセンター)への乗継利用者数	380人/年	278人/年 (R4数値)	327人/年	住民の設置要望や地域の実情を踏まえ、停留所の増設やダイヤ、運行ルートの変更を実施することで、利用の定着が進んでいる。 (参考) コロナ前からの乗継利用者数の推移 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th></th><th>H30</th><th>R元</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th></tr> <tr> <td>鵜方駅</td><td>102</td><td>160</td><td>138</td><td>114</td><td>105</td><td>72</td><td>106</td></tr> <tr> <td>志摩磯部駅</td><td>58</td><td>61</td><td>36</td><td>26</td><td>165</td><td>250</td><td>212</td></tr> <tr> <td>磯部バスセンター</td><td>49</td><td>43</td><td>25</td><td>23</td><td>8</td><td>25</td><td>9</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>209</td><td>264</td><td>199</td><td>163</td><td>278</td><td>347</td><td>327</td></tr> </table>		H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	鵜方駅	102	160	138	114	105	72	106	志摩磯部駅	58	61	36	26	165	250	212	磯部バスセンター	49	43	25	23	8	25	9	合 計	209	264	199	163	278	347	327
	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																					
鵜方駅	102	160	138	114	105	72	106																																					
志摩磯部駅	58	61	36	26	165	250	212																																					
磯部バスセンター	49	43	25	23	8	25	9																																					
合 計	209	264	199	163	278	347	327																																					
鵜方駅・賢島駅での定期券利用以外の乗車人員	362,000人/年	320,915人/年 (R4数値)	373,700人/年	前年度と比べて伊勢志摩地域への入込客数は増加しており、令和15年の遷宮に向けて、この傾向は続くものと推察される。 志摩スペイン村が30周年を迎える特別企画されたイベントの効果により、来場者数が増加した。イベントによっては臨時列車が運行されたため、鵜方駅からバスを利用する方も多く見られた。																																								

### 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

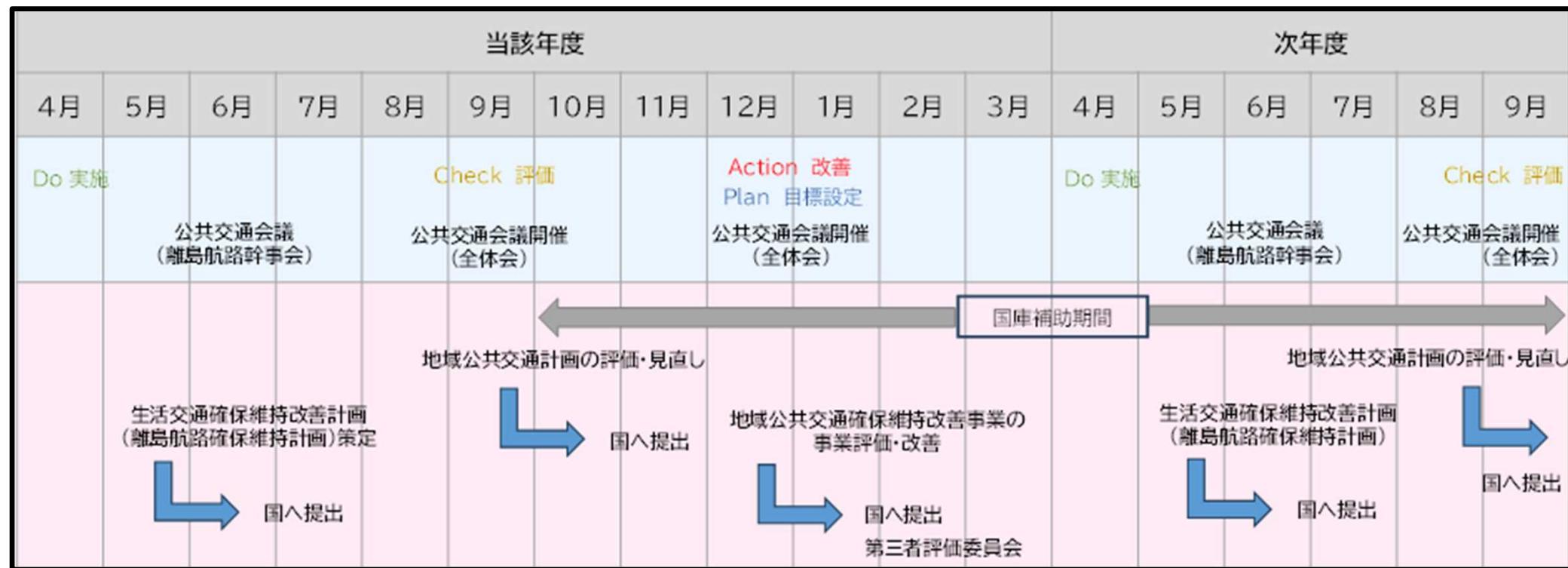
評価指標	R10年度 目標値	計画記載 の現状値 (R5年度)	達成状況 (R6年度 実績値)	考 察
観光客等の定期航路（あご湾定期船）利用者数	16,000人/ 年	12,952人/ 年	13,611人/ 年	観光入込客数の増加に伴い、観光客等の定期航路利用者数も増加傾向となっている。
交通環境学習の提供数	5回／年	1回／年 (R4数値)	0回／年	市内学校に向けて、交通事業者による教育プログラム提供の準備があることを周知したが、実施には至らなかった。
高校生の市内路線バス・定期航路（あご湾定期船）通学定期券購入率	【路線バス】 15.0% 【定期船】 15.0%	12.1% 11.2%	25.0% 2.5%	定期券を購入する学生の数は、その年の入学・卒業人数に影響を受ける。特に定期船については、市外から通学する生徒が前年度よりも減ったことが購入者数の減少につながっている。
スマホ教室等における公共交通関連アプリの利用支援回数	25回(累計)	—	0回(累計)	スマホ教室は開催されたものの、公共交通アプリの利用支援まで触れられなかつたため、目標値を達成できなかつた。

計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<p>公共交通空白地区の解消数</p> <p>R10 11地区 R6 0地区</p> <p>※ 解消＝本格運行として判断</p>	<p>志摩市地域公共交通計画に掲げる方針に基づき、中長期的な視点をもって段階的な進捗を図っていく。</p> <p>▶ デマンド交通 大王町・志摩町・阿児町については、実証運行時に寄せられた要望等を精査・反映させ、本格運行を目指していく。</p> <p>▶ 浜島地域予約運行型バス 浜島町において、路線バスへの影響にも配慮しながら、新規交通の実証運行を行い、本格運行を目指していく。</p>
<p>高校生の市内路線バス・定期航路（あご湾定期船）通学定期券購入率</p> <p>【路線バス／定期船】</p> <p>R10 15.0%／15.0% R6 25.0%／2.5%</p>	<p>路線バスの通学定期券購入率は目標を達成しており、新年度の学生に向けても引き続き周知をしていく。</p> <p>定期船の通学定期券購入率は目標を達成できていない。市外からの学生も利用できるため、県立水産高校と引き続き連携して、周知に力を入れて進めていく。</p> <p>▶ 志摩市高校生等バス通学支援補助金 ▶ 通学定期券購入補助</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	新たに策定された地域公共交通計画に基づき、当該計画のめざす将来像の実現、及び、持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化に向けた取組が進むことを期待します。	交通乗継拠点である鵜方駅構外トイレを再開させ、公共交通の利用促進を促した。 実証運行したデマンド交通で、地域間幹線への効率的な乗り継ぎを支援した。	各地域の特性に応じた、新たな公共交通ネットワークの段階的な構築を行っていく。
	高齢化の進展など地域の状況の変化に目を配りながら、引き続き、高校生等航路通学支援補助金の制度周知や離島を訪れるきっかけづくりとなるイベント等の実施などを通じ、航路の利用促進に努められることを期待します。	水産高校の入学説明会等で通学支援補助金の周知と、入学前の学校説明会で制度を紹介し、市外からの学生誘致を図った。また、婚活イベント「しま恋」や子どもたちが自然と触れ合える「魚のつかみ取り体験」を実施した。	引き続き、高校生等航路通学支援補助金の制度周知を進めていく。また、離島を訪れるきっかけとなるイベント等の実施を通じて、関係人口の創出と航路の利用促進に努める。
	AIデマンド交通の実証運行やサイクルツーリズム等の促進については、利用状況や利用者の声、運行（運航）事業者の所感、観光面など地域への波及効果等、可能な範囲で様々なデータや意見などを参考し、理解や浸透の状況を見ながら検討や改善等が進められることを期待します。	サイクルツーリズム等のイベント後にアンケートを実施した。また、AIデマンド交通については、利用の有無にかかわらず、地域内全域での住民アンケート調査を行った。	アンケート結果やその他方法で寄せられた意見について、次年度の運行や実施に向けて、改善を図っていく。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	新たに策定される地域公共交通計画に基づき、効果的で持続可能な公共交通サービスが維持・改善されていくことを期待します。	令和6年3月に「志摩市地域公共交通計画」を新たに策定し、「住む人支え、来る人迎える」という将来像を継承しつつ、観光利用と生活交通の最適なバランスを再定義した。	新計画で設定したKPIに基づき、毎年1回以上の自己評価とそれに基づく改善策の検討を徹底し、計画の形骸化を防ぐ。
	引き続き、高校生等航路通学支援補助金をさらに活用してもらえるよう、高校や運航事業者と連携し、対象生徒や保護者に制度周知を積極的に実施することを期待します。	県立水産高校における航路通学利用の促進を図ることを目的に、高校生等航路通学支援補助金の交付を継続した。	引き続き制度の周知徹底を図り、家計負担の軽減と通学手段の確保に努める。
	引き続き、島民や関係者との連携・協働の下、離島を訪れるきっかけ作りや交流イベント等の実施を促進することで、航路の利用促進を図られることを期待します。	婚活支援イベント「しま恋」や『しましまあそび』など、島を訪れた経験が無い市民等が訪れるきっかけをつくるイベントを実施した。	引き続き、島民や関係者との連携を深め、単なる移動手段としてではなく、島での体験や交流を目的とした航路利用を促進する。

※前回：令和7年3月27日、前々回：令和6年3月21日



### 【協議会の実施状況】

- ◆令和7年度志摩市地域公共交通会議 第1回離島航路幹事会 令和6年6月16日（月）  
(主な議題) 生活交通確保維持改善計画（離島航路確保維持計画）の策定について 等
- ◆令和7年度志摩市地域公共交通会議 第1回陸上交通幹事会 令和7年6月16日（月）  
(主な議題) 「浜島地区予約運行型バス」に係る実証事業について 等
- ◆令和7年度志摩市地域公共交通会議 第1回全体会 令和7年9月26日（金）  
(主な議題) 地域公共交通計画の評価について 等
- ◆令和7年度志摩市地域公共交通会議 第2回離島航路幹事会 令和8年1月8日（木）  
(主な議題) 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月8日

協議会名： 志摩市地域公共交通会議

評価対象事業名： 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名・運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】 【事業の今後の改善点及び適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
志摩マリンレジャー株式会社	【航路名】和具～賢島航路 【航路区間】和具～間崎～賢島	<p>【高校生等航路通学支援補助金制度の実施】 高校による入学説明会等での制度周知や定期券購入時におけるチラシ配布に取り組んだ。</p> <p>【デマンド交通の実証運行の実施】 大王町、志摩町及び阿児町において、AIデマンド交通「のりあい」の実証運行を実施し、定期船乗り場からの移動の利便性を図っている。</p> <p>【間崎島における交流イベントの実施】 訪島のきっかけづくりを目的として、間崎島等をフィールドとした結婚支援イベント「しま恋」や、「第44回全国豊かな海づくり大会」の関連事業として「英虞湾再考(さいこーく)ツアー」や「魚つかみ取り体験in間崎島」を実施した。</p> <p>【交通DX・GXによる経営改善支援事業の活用】 国の補助金である「交通DX・GXによる経営改善支援事業」を活用し、予備船「さきしま」の主機関等換装を実施し、航路の確保維持を図った。</p> <p>【航路設備のバリアフリー化】 航路設備におけるハード面の整備について、多角的な検討を要するため、引き続き関係機関との検討を行う。また、福祉部署と連携して生活支援策を検討し、ソフト面からの補完を図っていく。</p>	A	<p>【総合評価】 事業(運航)は概ね適正に実施された。</p> <p>B 【内訳】 前年(令和5年10月～令和6年9月)実績値から島民利用約420人、定期券利用450人、観光客等約60人減少 【主な減少要因】 島民利用は、島民の人口減少に伴う、利用減少が考えられる。 定期券利用は、高校生(令和6年10月～令和7年9月)は14人であり、前年の16人と比較し、2人減少している。引き続き、航路を通学方法の選択肢として周知していく。また、通勤者は1人減少し、3人であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航路にはバスはないメリットがあり、それぞれの生徒に適した通学手段を柔軟に選択できるよう、航路通学支援補助金制度を含め、生徒や保護者への周知を引き継ぎ実施する。</li> <li>・間崎島民の本土での移動支援につながる取組として、和具の定期船乗り場と志摩町内にある目的地間を接続するAIデマンド交通「のりあい」の実証運行を実施した。今後は通常での本格運行を目指し、継続的な利便性向上を図っていく。</li> <li>・令和7年11月に間崎島をフィールドとして、結婚支援イベント「しま恋」を実施した。今後も訪島のきっかけづくりとして、島民と協働しイベント等の創出に取り組んでいく。</li> <li>・国の「交通DX・GXによる経営改善支援事業」を活用し、主力船「おくしま」の補機関等換装を実施し(令和8年3月末完了予定)、安定した航路の確保維持を図っていく。</li> <li>・島民の高齢化に伴い、日常的な定期船利用の運賃負担が生活を圧迫していることから、継続的な公的補助による負担軽減を図る必要がある。</li> </ul>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月8日

協議会名:	志摩市地域公共交通会議
評価対象事業名:	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>志摩市では令和6年3月に志摩市地域公共交通計画を策定し、本計画が目指す将来像として、高齢者と高校生を中心とした市民と来訪する観光客を念頭に置き、「住む人の誰もが、いつまでも、安心して自由に出かけられ、訪れた人がみな、まちじゅうを自由に巡り、自然や人の魅力に出会えるまち」と定めている。また、めざす将来像を実現するため、航路の対応方針として「定期航路(あご湾定期船)の運航維持と利用促進」を掲げ、取組を進めている。</p> <p>本航路は、間崎島住民の移動、物流、医療等において、必要不可欠な生活航路であることに加え、美しいリアス海岸を有する風光明媚な英虞湾を運航することから、観光航路としても利用されている。また、志摩町和具にある「県立水産高等学校」へ通学する学生の移動手段としても重要な役割を担っており、地域活性の面においても必要性の高い航路であり、引き続き確保維持を図っていく。</p>